

科目区分	専門分野	授業科目	看護学概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 看護と看護の対象となる人間及び健康の概念を理解し、看護の果たすべき機能と役割を理解する。</p> <p>目標: 1 看護の本質及び看護の概念を理解できる。 2 看護の役割と機能、看護実践の方法を理解できる。 3 看護における倫理を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護の概念	12	1 看護とは何か 1) 看護の本質 2) 看護の主要概念－人間・環境・健康・看護－ 3) 看護の対象 4) 看護の定義 (1) 保健師助産師看護師法 (2) 各理論家による看護とは(ナイチンゲール、ハンダーソン、オレム、ペプロウ) (3) ケアリングとしての看護 (4) 職能団体による定義 2 実践科学としての看護 1) 看護技術の概念 2) EBMに基づく看護 3) 看護師－患者の援助関係 4) 臨床判断 5) 看護過程 3 看護の歴史 1) 近代看護への道 2) 職業的看護の発展	
2 看護の対象	4	1 統合体としての人間 1) 関係的存在としての人間 2) 全体的存在としての人間 3) 人間の成長と発達の原則 4) エリクソン、ハヴィガーストの理論 5) 基本的ニードと成長のニード 6) 人間と環境 (1) ホメオスタシス(身体的環境) (2) ストレス、コーピング(精神的環境) 2 人間の個別性 1) 生活とくらし 2) 多様性を持つ性 3) 役割 4) 国民の健康の状態	
3 健康の概念	4	1 健康とは 1) 健康の定義 2) 健康の概念の変遷 3) 看護における健康の概念	

		4) 国際生活機能分類(ICF) 5) ウェルネス
4 看護の 役割と機能	2	1 看護の役割と機能 2 看護が機能する場 3 保健・医療・福祉の連携 1) 継続看護 2) チーム医療 3) 地域包括ケアシステム
5 看護に おける倫理	6	1 看護と法 2 倫理とは何か 3 専門職としての倫理 1) 専門職の要件 2) 専門職としての役割と責任 4 臨床倫理 1) インフォームドコンセント 2) 医療倫理の4原則 5 看護とインフォームドコンセント
6 看護実践 を支える もの	1	1 看護制度と看護行政 2 看護師の労働環境と労働安全衛生 3 看護教育
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート課題 参加状況・態度等
テキスト		メヂカルフレンド社 基礎看護学① 看護学概論 現代社 看護覚え書 -看護であること 看護でないこと-第8版 メディックメディア 看護がみえるvol.5 対象の理解I メディックメディア 公衆衛生がみえる 新日本法規 看護六法 令和7年版
参考資料		必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護における基本技術
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 看護における共通基本技術を習得する。 目標: 1 看護に必要なコミュニケーションの基礎的知識と技術を習得する。 2 感染予防に必要な知識と技術を習得する			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 看護におけるコミュニケーション	14	1 看護におけるコミュニケーションとは 1) 患者と看護師間のコミュニケーションの特徴、看護師の責任 2) コミュニケーション過程に必要な力 2 コミュニケーションのタイプ 1) 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 2) 明解性と継続性 3 看護における基本的なコミュニケーション技法 4 コミュニケーション場面の再構成※1 1) 場面の再構成を行う意味 2) 実習でのコミュニケーション場面の再構成 3) コミュニケーション過程の考察	
2 感染予防の技術	15	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策(スタンダード・プリコーション)の考え方 3 標準予防策の実践 ※2 1) 手指衛生の種類 (1) 手洗い (2) 手指消毒 (3) 手術時手指消毒 2) 個人防護用具(PPE)の取り扱い 3) 環境対策 4) 感染経路別予防策 (1) 飛沫予防策 (2) 空気予防策 (3) 接触予防策 4 洗浄・消毒・滅菌 1) 医療器材の取り扱い 5 廃棄物の取り扱い ※2 6 無菌操作 ※1 1) 清潔・汚染とは 2) 滅菌物の取り扱いの基本 (1) 滅菌包装の開き方 (2) 鑷子の取り扱い・滅菌物の受け渡し (3) 滅菌手袋の着用	
	1	試験	
評価方法	筆記試験、レポート、参加状況・態度等		

テキスト	<p>メヂカルフレンド社 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版</p>
参考資料	<p>必要に応じて適宜紹介する。</p>
履修上の 留意事項	<p>予習・復習をして授業に臨むこと。 演習やグループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。</p>
備考	<p>※1、2は演習を行う。 単元1 コミュニケーション場面の再構成では、基礎看護学実習Ⅱでのコミュニケーション過程を再構成し、考察する。 単元2 感染予防技術の演習では、手洗い・手指消毒・個人防護用具の取り扱い・無菌操作(滅菌手袋の着用・鑷子の取り扱い・滅菌物の受け渡し)を行う。</p>